

鶴見病院が県の「がん診療連携協力病院」に

別府市

別府市の県厚生連鶴見病院が本年度から、県の「がん診療連携協力病院」に指定された。

県厚生連は病院、健康管理センター、訪問看護ステーションなどを運営。病院では緩和ケア病棟を併設し、がんサロンなども開いている。藤富豊院長は「がんの早期発見、治療、終末期医療まで一貫してサポートしている。これからも質の高いがん医療を提供していく。がん検診の受診者を増やし、早期発見で治療の負担を少なくしたい」と話している。

県内には現在、県の「がん診療連携協力病院」が3カ所ある。2次医療圏に置くことを基本とし、国が指定した「がん診療連携拠点病院」は6カ所ある。

連携協力病院は県独自の取り組み。拠点病院に準ずるもので、専門的な医師の



「がん診療連携協力病院」に指定された県厚生連鶴見病院

配置、相談支援センターの有資格者数、緩和ケアの提供体制など厳しい基準が設けられている。